

43. 男女学童の体型に適する衣服寸法について

お茶の水女子大 柳沢 澄子
桃 千代
○原田 隆子
内藤由紀子
家永 暁子

1. 私共は、日本の学童の体型に適する衣服寸法の基準を設定する目的をもって、1959～60年にわたり、東京都山の手某小学校1～6学年の男女600人について、身体計測に基く調査研究を行ったので報告する。

2. 身体計測値のうち、特に衣服寸法に関係の深い12項目(身長・総丈・背丈・袖丈・肘丈・背肩幅・上腕囲・手首囲・胸囲・胴囲・腰囲・頭囲)をとりあげ、性別・年令別に集計整理を行い、体型の差異並びに成長の様相を比較考察した。次いでこれらの資料に基き推定式を作り、それぞれの推定値を算出した。

3. 年令別にみると、男女共平均値は加令と共に漸増する。その増加率は男女共長径・周径いずれも8～10才間で一時減少するが、10～11才間で再び大きくなる傾向がみられる。また男女間の体型については、6～8才では特に性差はみられないが、9～11才になるとやや性差が顕われてくる。すなわち6～11才を通じ、背丈では男子、腰囲では女子が優位である。その他の項目では、加令と共に女子の発達をめざましく、次第に女子が男子を凌駕していくことがわかる。特に11才では、背丈を除く他の全ての項目に於て女子が男子を大きく凌いでいる。これは女子が男子より先に思春期に入るためであろう。以上の結果を用い、性別・年令別に衣服寸法の基準を設定してみた。